

中間評価シート

中間評価（表紙）

掛川市 歴史的風致維持向上計画（平成30年1月23日認定） 中間評価（平成29年度～令和4年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物に関する方針	3
II 城跡に関する方針	4
III 歴史や伝統を反映した活動に関する方針	5
IV 歴史的建造物の周辺環境に関する方針	6
V 歴史文化資産に係る情報発信や周遊性に関する方針	7
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 文化財保存団体の増加	8
ii 粟ヶ岳における観光客数の増加及び新規観光事業の展開	9
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 松ヶ岡（旧山崎家住宅）保存修理・活用事業	10
B 三熊野神社大祭調査研究事業	11
C 掛川公園と周辺整備事業	12
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 掛川城下の祭りにみる歴史的風致	13
2 事任八幡宮例大祭にみる歴史的風致	14
3 横須賀城下の祭りにみる歴史的風致	15
4 高天神城と周辺集落の祭りにみる歴史的風致	16
5 掛川茶の生産にみる歴史的風致	17
6 報徳運動にみる歴史的風致	18
■ 庁内体制シート（様式6）	19
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	20
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	21

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	掛川城下の祭りにみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ	
2	事任八幡宮例大祭にみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ	
3	横須賀城下の祭りにみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ	
4	高天神城と周辺集落の祭りにみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅴ	
5	掛川茶の生産にみる歴史的風致	Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ	
6	報徳運動にみる歴史的風致	Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	歴史的建造物に関する方針		
Ⅱ	城跡に関する方針		
Ⅲ	歴史や伝統を反映した活動に関する方針		
Ⅳ	歴史的建造物の周辺環境に関する方針		
Ⅴ	歴史文化資産に係る情報発信や周遊性に関する方針		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	文化財保存団体の増加		
ii	粟ヶ岳における観光客数の増加及び新規観光事業の展開		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	松ヶ岡（旧山崎家住宅）保存修理・活用事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	三熊野神社大祭調査研究事業	その他	
C	掛川公園と周辺整備事業	その他	

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
方針	I 歴史的建造物に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】観光や景観の観点から、文化財保護・活用の重要性がさらに増してきているものの、十分にその価値が整理されていない建造物が多くあるほか、老朽化による破損などがあるが多額の費用等が課題となり、修理が進まないことで、歴史的景観の魅力や文化財的な価値が失われてしまうことが懸念されてる。

【方針】指定文化財等については、引き続き適切な維持管理を図るとともに、未指定の建造物については、実態調査を行い、必要に応じて指定文化財、景観重要建造物などに指定し活用と保全を図る。また、官民間わず、歴史的建造物が適切に保存・利活用されるよう、既存制度の研究・活用、民間ノウハウを活用した資金調達など、所有者や管理者の負担軽減に努めるとともに、保存や復元整備を進め、市民と行政のパートナーシップによる、現状把握や維持管理・活用を促進する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的風致形成建造物指定	2件を指定	あり	H29～R9
2	松ヶ岡保存修理・活用	松ヶ岡の修理工事及び一般公開を実施	あり	H29～R9
3	掛川城天守閣修復景観整備工事	天守の壁面、高欄等を修復	あり	H29～R9

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●歴史的風致形成建造物指定
松ヶ岡及び、掛川城(天守閣、石垣)を歴史的風致形成建造物に指定。掛川城(天守閣、石垣、塀、門)については、景観計画に基づく景観重要建造物に指定した。

●松ヶ岡保存修理・活用
貴重な文化財を後世に伝えるため、修理工事を令和2年度から開始。以前から実施していた一般公開は、工事中継続し、工事現場の見学等も実施し、市民に向けた文化財の価値の周知等に繋がった。

●掛川城天守閣修復景観整備工事
歴史的風致形成建造物に指定した、掛川城天守閣の漆喰壁、廻縁・高欄の修復工事を実施、併せて市民向けの工事見学等を実施し、歴史的風致の周知及び維持向上に繋がった。

松ヶ岡(旧山崎家住宅)

掛川城天守閣

松ヶ岡工事見学会の様子

④ 自己評価
市内を代表する歴史的な建造物を歴史的風致形成建造物に指定し修復工事等を実施するとともに市民に向け一般公開や工事見学等を行うことで、景観、文化財的価値の再認識や保全等に対する市民の意識の醸成に繋がった。

⑤ 今後の対応
「歴史的建造物に関する方針」に基づき、建造物の調査等を進め、歴史的風致形成建造物等の指定を進めるとともに、官民間わず、保存・利活用が図られるよう有効な手法の研究等を進める。

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
方針	Ⅱ 城跡に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】高天神城跡（1975）、横須賀城跡（1981）はそれぞれ国の史跡に指定され、公有化と市による維持管理が図られている。これらは、郷土の歴史を知る場所として、また憩う史跡公園として整備され地域住民を中心に訪問者を集めている。また、高天神城攻略のための六砦など関連遺跡にも関心が寄せられ、中村砦では保存整備が進みつつあるが、高天神城跡及び横須賀城跡の基本整備計画は定められているものの、その計画に基づく調査や整備が遅れている。

【方針】
高天神城跡、横須賀城跡は、整備基本計画に基づき、未調査部分の発掘調査、調査終了部分の適切な保全、環境整備を進める。また、高天神城跡と関連の深い中村砦は、市と地域が協働して、適切な保存・活用を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	横須賀城跡復元・活用事業	37筆 21469.33㎡敷地を公有化	あり	H29～R9
2	高天神城跡復元・活用事業	遊歩道、標柱、案内看板の設置	あり	H29～R9
3	高天神六砦「中村砦」保存・活用事業	市民による憩いの場としての整備を実施	あり	H29～R9

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●横須賀城跡復元・活用事業
平成30年度から令和4年度までに37筆、21469.33㎡の敷地を公有化し、史跡指定面積の76%が公有化された。令和3年度には、三の丸の発掘調査を実施した。

●高天神城跡復元・活用事業
遊歩道の補修を継続的に実施、史跡内で老朽化が激しい標柱と案内看板の交換を実施し、適切な環境整備が図られた。

●高天神六砦「中村砦」保存・活用事業
住民が中心となって組織された中村砦城山保全会により、木竹の伐採、園路、芝生広場の整備等により憩いの場として市民による活用が図られた。
また、案内看板の設置や地元小学生向けの見学会等の開催を通じて、史跡に対する市民の理解を深めることに繋がった。

④ 自己評価
整備計画に基づく整備を進めるため、敷地の公有化や発掘調査、遊歩道、広場の整備等を行うことで、史跡の保存・活用が図られ歴史的風致の市民の理解の促進、維持向上に繋がった。

⑤ 今後の対応
整備計画に基づく整備を実施するため、引き続き敷地の公有化や発掘調査、各種整備事業を進める。一方、市内3つの史跡があり本格的な整備には、相当な時間と費用がかかることから整備スケジュールを調整し、計画的に推進する。



高天神城跡整備箇所



中村砦城山保全会による整備の様子



中村砦に設置された案内看板

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
方針	Ⅲ 歴史や伝統を反映した活動に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史の中で培われてきた、伝統的な祭礼や行事、産業、地域振興のための取り組みなどは、人口減少傾向の継続、生活様式、産業構造の変化による後継者の不足・不在によって放っておくと消滅しかねない価値ある活動が存在する。

【方針】お祭りなど伝統芸能を後世に継承するため、記録の作成、維持管理や後継者指導養成研修などの地域活動団体への支援、市内外への情報発信を行う。また、来訪者等の関心を深めるため、説明板等を景観と調和するように設置する。また茶産業の維持継承するため、掛川市茶振興計画に基づき掛川茶の品質の維持、市民が掛川茶について学ぶ機会の充実、観光交流等の連携などを進める。さらに世界農業遺産の認定を活用し、伝統的な生業及び良好な景観を価値づけ適切に保全し、地域産品の販売促進や地域住民の意識の醸成につながるよう、重要文化的景観の調査を検討する。報徳運動は本市の行動の基礎となる文化であり、生涯学習や、総合学習などにおいて関心を深めていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	三熊野神社大祭調査研究事業	国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された。	あり	H29～R6
2	葛布産業振興支援事業	葛布作り体験ツアー、葛紙名刺の作成販売、大学との連携事業を実施。	あり	H29～R9
3	茶手もみ技術伝承事業	手揉技術の実演等を実施。 (H30～R1 計34回)	あり	H29～R9
4	重要文化的景観の調査研究事業	R2～R4にかけて、静岡県による文化的景観の調査を実施した。	あり	H29～R9

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●三熊野神社大祭調査研究事業
平成30年度に国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された「三熊野神社大祭の祢里行事」の民俗文化財調査を令和2年度から5年計画で実施し、文化財としての価値の保存継承に繋がっている。

●葛布産業振興支援事業
令和2年度に「葛利活用コンソーシアム」を設立し、大学生による商品化の提案や葛布のキャンバスを使用した活用したキャンバスの美術作品の展示、賛同企業への葛を活用した名刺の作成、販売などを通じ、伝統産業である葛布を通じた歴史的風致の市内外への情報発信に繋がった。

●茶手もみ技術伝承事業
市内小学校を中心に手もみ技術の実演等を実施、子どもの茶への関心と理解を深めることに繋がった。また、平成30年度は皇室への献上茶謹製事業として、市を代表する伝統産業としての周知に繋がった。
※令和2～4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。

三熊野神社大祭 人形調査

葛のキャンバス利用した美術作品の展示

④ 自己評価
市内伝統行事、産業等に関する調査、市内外への情報発信等を通じ、市民中心とした伝統行事、産業の価値、保存継承への理解促進や意識の醸成に繋がった。

⑤ 今後の対応
引き続き伝統行事、産業等に関する調査、情報発信等を通じて、地域住民の意識を醸成を進める。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、中止となっていた事業や行事を再開できるよう支援を検討していく。

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
方針	Ⅳ 歴史的建造物の周辺環境に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史的建造物の周辺において、景観を損ねる建築物や工作物、また、建造物の老朽化、空き地や耕作放棄地の増加などによって、伝統的な活動が行われる背景にこれらの施設等が入り込み良好な市街地環境や農地景観の阻害が懸念されている。また、歴史的な街並みや農地景観と調和しない道路舗装などの公共施設も見られ、架空電線や電柱が、良好な街並み景観や眺望景観を損なうことや、祭り屋台の引き回しなど伝統的な祭りをを行う際に支障をきたすこともある。

【方針】市内全域において、引き続き地区計画や景観計画などによる建築物や屋外広告物などの規制誘導を進めるとともに各種まちづくり施策との連携を図りながら、歴史的建造物周辺の建造物などの外観修景や景観阻害物件の除却を実施する。また、社会経済情勢や住民意識の変化を踏まえて規制誘導の内容を見直すことで歴史的建造物と一体となった歴史的街並みの保全形成に努める。さらに、良好な市街地を実現するために、道路の美装化、街路灯の修景、無電柱化などを実施する。また、歴史的な街並みや農業景観に調和した公共空間の整備を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	掛川城周辺電線地中化及び道路の美装化及び街路灯修景事業	歴史的街並みに調和するよう道路を美装化を実施。L=140m	あり	H29～R9
2	横須賀街道電線地中化及び美装化事業	景観形成重点地区住民を中心に無電柱化、道路美装化に向けたワークショップを実施	あり	H29～R9
3	粟ヶ岳周辺における景観形成推進事業	粟ヶ岳世界農業遺産茶草場テラス（かっぱしテラス）をオープン	あり	H29～R9

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●掛川城道路美装化事業
大手門周辺の道路を石畳風舗装に美装化、地区計画で規制誘導している城下町風の街並みと調和した空間を創出することに繋がった。

●横須賀街道電線地中化及び美装化事業
景観計画で重点地区として位置づけている遠州横須賀街道沿道地区の住民を中心に無電柱化、道路の美装化に向けた意見交換やワークショップを実施、歴史的な街並みの維持向上に向けた地域住民の意識醸成に繋がった。

●粟ヶ岳周辺における景観形成推進事業
粟ヶ岳山頂に、「粟ヶ岳世界農業遺産茶草場テラス（かっぱしテラス）」をオープン、眺望景観を望むスポットが整備され、粟ヶ岳山頂から望む東山地区の茶園景観が、令和2年度「静岡県景観賞」最優秀賞を受賞、地域住民をはじめ市民、観光客の景観への関心を高めることに寄与した。

④ 自己評価

街並みや、農業景観と調和する道路や施設が整備されることで、既存計画等による規制誘導と合わせて良好な景観形成に繋がった。

⑤ 今後の対応

引き続き道路の美装化などの整備事業を検討・実施し、良好な景観形成を既存計画等の規制誘導と合わせて、進めていく。



大手門周辺道路美装化箇所



粟ヶ岳世界農業遺産茶草場テラス

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
方針	V 歴史文化資産に係る情報発信や周遊性に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史文化資産の情報不足や、魅力を発信できる体制が整っていないことなどにより、地域住民や来訪者に鑑賞や活動の機会を十分に提供できていないことや、個々の事業では、多様な資源をつなぐ事業が開始、検討されているが、周遊を促す環境整備に課題がある。

既存の案内板を見ると個々のデザインの統一感がなく老朽化しているものも見られ、来訪者の利便性への配慮に欠けているものや、外国人来訪者の案内誘導のための外国語併記のない案内板もある。また、歴史的建造物や文化施設の集積する掛川公園周辺と掛川駅周辺を結びつけることで中心市街地の回遊性の向上を図ってきたが、休日の歩行者通行量は増加したものの、平日の増加に繋がっていない。

【方針】

他地域の市民や来訪者の歴史文化資産に対する認識の向上を図るため、各地域の歴史文化資産を一定のテーマやストーリーで整理し、周遊ルートの検討、案内板の統一、現地ガイドや体験学習を提供する拠点の整備、関連行政部門が連携した体制の構築を検討する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	文化財展の開催事業	出土文化財展、出前文化財講座、夏の文化財教室等を開催	あり	H29～R9
2	サイン・案内板設置事業	掛川城周辺公共サイン整備方針を策定、一部サイン案内板を整備	あり	H29～R9
3	掛川公園と周辺整備事業	まちなかウォークブル推進事業として社会実験を実施	あり	H29～R9

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●文化財展の開催事業
毎年、出土文化財展、出前文化財講座、夏の文化財教室等の事業を実施することにより、多くの地域住民、来訪者への歴史文化資産の情報発信、鑑賞機会の提供することに繋がった。

●サイン・案内板設置事業
乱立していたサイン・案内板を統一した方針により再整備することで、景観の向上、観光客の利便性の向上に繋がった。

●掛川公園と周辺整備事業
掛川公園及び連雀西交差点の歩道にベンチを設置、合わせて物販等を実施できるスペースを確保し、社会実験「かけがわストリートテラス」を実施。歴史・文化ゾーンの賑わいづくりに寄与した。

④ 自己評価

文化財展等の事業を通じ、歴史文化資産への理解、関心を深めることができた。また歴史・文化ゾーンの中核である掛川城周辺では、サイン整備やベンチの設置により観光客の利便性の向上、賑わいの創出につながった。

⑤ 今後の対応

掛川城周辺の整備事業を引き続き進めるとともに、市内に点在する歴史文化資産、主に掛川城、高天神城跡、横須賀城跡をつなぐ周遊ルートの検討等を進め、他地域の市民や来訪者の歴史文化資産に対する認識の向上を図る。

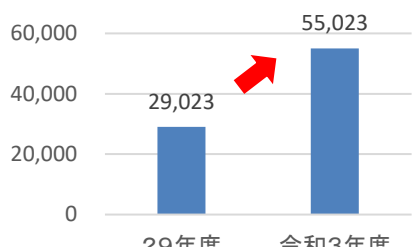


出前文化財講座



サイン整備検討の様子

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年			
効果	i 文化財保存団体の増加					
① 効果の概要						
文化財保存団体の数が増加し、質が向上した。						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	第2次掛川市総合計画	あり	R2～R7			
2	掛川市文化振興計画	あり	H27～R6			
3	掛川市観光振興計画	あり	H31～R10			
③ 効果発現の経緯と成果						
静岡県や掛川市の指定文化財を伝承する文化財保護団体としては、かんからまち保存会、三社祭礼囃子保存会、八坂神社祭典保存会、地固め舞と田遊び保存会があったが、平成30年に垂木の祇園祭保存会が新たに設立した。 文化財の保存・伝承活動を支援する文化財保護団体については、平塚古墳保存会、以善会、川坂屋の会、静岡県立横須賀高等学校郷土芸能部、松ヶ岡を愛する会等があったが、和田岡古墳群美化ボランティア「古墳スマイル隊」が令和3年に設立した。 令和2年度に始まった静岡県の「ふじのくに文化財保存・活用推進団体」認定制度に積極的に応募し、現在までに、平塚古墳保存会、以善会、川坂屋の会、静岡県立横須賀高等学校郷土芸能部、松ヶ岡を愛する会の5団体が認定を受けている。 文化財保護団体が2団体、静岡県の認定団体が5団体増加した。						
						
垂木の祇園祭		古墳スマイル隊				
④ 自己評価						
貴重な文化財を保存・伝承していくためには、市民の協力が重要である。 文化財保護団体が増加したことは、文化財を支える人材の裾野が広がったと考える。 また、それぞれの団体は、文化財の維持管理、伝承の後継者育成、調査・研究、団体内での研修など、各種の活動に取り組んでおり、これらにより団体の質が向上し、静岡県の認定を受けることができた。						
⑤ 今後の対応						
少子高齢化や人口減少等により、伝統芸能の伝承や文化財保護団体の継続が難しい社会情勢が続いている。 引き続き各団体と協力し文化財の保存・活用に取り組みつつ、団体の継続等の課題にも対応していく。						

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年																
効果	ii 粟ヶ岳における観光客数の増加及び新規観光事業の展開																		
① 効果の概要 コロナ禍において、施設の閉鎖等により観光客数が減少傾向にある状況の中、粟ヶ岳では約1.9倍（H29-R3比）増加した。また、複数の歴史的風致を活用した、ドライブスタンプラリーや粟ヶ岳山麓における農泊等の新規事業が実施された。																			
② 関連する取り組み・計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>他の計画・制度</th><th>連携の位置づけ</th><th>年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>掛川市景観計画</td><td>あり</td><td>H22～</td></tr> <tr> <td>2</td><td>掛川市観光振興計画</td><td>あり</td><td>H31～R10</td></tr> <tr> <td>3</td><td>大井川流域・牧之原大茶園景観形成行動計画</td><td>なし</td><td>H31～</td></tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	掛川市景観計画	あり	H22～	2	掛川市観光振興計画	あり	H31～R10	3	大井川流域・牧之原大茶園景観形成行動計画	なし	H31～
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	掛川市景観計画	あり	H22～																
2	掛川市観光振興計画	あり	H31～R10																
3	大井川流域・牧之原大茶園景観形成行動計画	なし	H31～																
③ 効果発現の経緯と成果 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市全体としては観光客数が大幅に減少する中、令和3年度粟ヶ岳の観光客数は、約5万5千人と平成29年度比約1.9倍となった。 平成25年に世界農業遺産に認定されて以降、ビュースポット等景観整備事業や地域住民によるビジターセンターの運営などにより、観光客の受け入れを進めており、令和2年に完成した世界農業遺産茶草場テラスの整備やコロナ禍におけるアウトドア志向等の影響もあり、観光客が増加した。 令和2、3年には、コロナ禍において密を避けながらも観光を楽しんでいただくために、アプリを利用して、粟ヶ岳を含む歴史的風致に関係する掛川城、高天神城跡、横須賀城跡等の名所を巡る「三城をめぐるドライブスタンプラリー」を実施し、延べ2,470人が参加した。 また、令和2年4月に設立したNPO法人や、民間企業、地元のまちづくり協議会、行政等で組織された、「かけがわ粟ヶ岳山麓農泊推進協議会」では、粟ヶ岳周辺における農家民宿や農家民泊、縁側カフェ等の体験・宿泊事業、ロゲイニング等のイベント、空き家耕作放棄地の課題解決等に取り組むなど、自然と共生する美しい里山と人々の暮らしを未来につなぐため、地域住民自らが楽しく負担なく継続していける交流事業の展開が進んでいる。																			
④ 自己評価 茶草場テラス等の施設整備や、新規観光事業により観光客が増加し、粟ヶ岳周辺の魅力を多くの方に発信し、理解いただけることで、地域住民が地域に誇りをもって更なる交流につながる事業の展開や伝統的な農法の継承への意欲の向上に繋がっている。		粟ヶ岳年間観光客数（人）   ドライブスタンプラリーチラシ  粟ヶ岳ファミリーロゲイニング in 東山																	
⑤ 今後の対応 引き続き、粟ヶ岳における観光客への情報発信等を進めるとともに、コロナ禍で観光客が減少した他歴史的風致の歴史文化資産とも連動させながら、情報発信や周遊性の向上に努める。																			

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
取り組み	A 松ヶ岡(旧山崎家住宅)保存修理・活用事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

平成28年に市指定文化財に指定された松ヶ岡は、160年以上前に建築された建物のため、経年劣化による傷みが進行していた。

そこで、平成30年度に実施設計を行い、令和元年度に修復工事に着手、令和2年度からは大規模修復工事を開始し、屋根の葺き替えや壁の修復などを進めている。

松ヶ岡では以前から毎月第4土曜日に一般公開を実施しており、工事開始後においても継続している。

また、工事現場の見学会や、大学の授業での活用、工事で使用する瓦の裏に名前やメッセージなどを記入していただく企画等を実施し、松ヶ岡への理解と愛着を深めていただけるよう努めている。



修復工事の様子



工事見学会の様子



メッセージが記入された瓦

② 自己評価

松ヶ岡は平成24年に掛川市が取得して以降、市民と連携して、維持管理や広報・周知、修復工事の準備を進めており、市民協働のまちづくりの事例となっている。

令和2年の大規模修復工事開始後は、工事現場見学会など、修復工事中しかできない取り組みも進め、貴重な文化財である松ヶ岡を後世に継承するとともに、教育や技術の伝承、観光といった分野での活用も進め、徐々に周知ができてきていると考える。

外部有識者名	静岡文化芸術大学 デザイン学部デザイン学科 准教授 新妻淳子
外部評価実施日	令和5年1月20日

③ 有識者コメント

松ヶ岡の保存修理事業は、昭和8年の屋敷の姿に順調に整備されている。保存修理工事に伴う調査によって、主屋は安政東海地震後の安政3年の上棟、式台玄関や台所は明治44年の増改築であることが判明した。建築構法は、地震や遠州の風を考慮した造りで、当地の工法で建築されていることも明らかになった。これら調査の成果は、毎月第4土曜日の市民ボランティア清掃・一般公開、現場見学会、大学授業実習、ホームページ等で、随時公表され、松ヶ岡の価値について、広く認識されるようになっていく。保存修理工事は、建築の価値や技術について学ぶ貴重な機会であり、後世へつなぐ人材の育成のためにも、現在の取り組みを継続し、さらに裾野を広げる活動に期待する。

④ 今後の対応

松ヶ岡の修復工事を引き続き進め、工事に伴う調査で判明した事実等を広く公開していく。また、工事終了後も市民と連携して松ヶ岡の運営を行い、多くの方が来場いただけるよう松ヶ岡を活用していく。

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
取り組み	B 三熊野神社大祭調査研究事業	種別	その他

① 取り組み概要

平成31年3月28日に国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に「三熊野神社大祭の祢里行事」が選択された。

そこで、行事全体の実態調査や関連資料調査を行い、その文化財的価値を明らかにし、今後の保存と活用につなげていく。

具体的な事業として、各分野の専門家による調査委員会を組織し、令和2年度から令和6年度までの5年計画で国庫補助事業により民俗文化財調査を進めている。

これまでに、祭典に使われる人形や天幕、祢里（山車）といった道具の調査や、祭典運営の組織、祭典運営方法などの聞き取りといった調査が行われた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年、3年の祢里曳き回しが中止となったため、祭典の調査ができない状況が続いていたが、令和4年は3年ぶりに祢里の曳き回しが実施されたため、祭典当日の調査を実施することができた。





三熊野神社大祭

聞き取り調査

天幕調査

② 自己評価

当初は3年で調査を行う計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2ヶ年延長となった。祭典関係者は調査に大変協力的であり、新型コロナウイルスの状況に注意しつつ調査を進め、令和6年度の調査報告書刊行を目指す。

外部有識者名	國學院大學観光まちづくり学部 准教授 石垣 悟
外部評価実施日	令和5年1月20日

③ 有識者コメント

旧横須賀藩領最大の祭礼として国の選択を受け、速やかに調査が実施されている。想定外のコロナ禍で当初計画の変更はあったが、できることから（人と接しなくても可能な調査など）コツコツ進めてきている。祭礼の担い手もそれをよく理解し、全面的な協力がなされている。加えて、地元はコロナ禍での継続にもいち早く取り組んでおり、祭礼の継続・継承への意欲が感じられ、調査の遂行を円滑なものとしている。ただ、一方で継承されてきた用具類への意識が若干希薄な面がみられ、結果的に貴重な歴史的風致である祭礼の様相を変えてしまう可能性も危惧されることから、この点についても調査を進めながら、その維持に注力していくべきである。

④ 今後の対応

引き続き、専門家、地元関係者の協力を得て調査を進めていく。

また、調査で判明した事実の公開・周知や、祭礼の継承に関する地元との意見交換なども進め、貴重な伝統行事である三熊野神社大祭の祢里行事が永く継承できるよう、体制整備を進めていく。

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
取り組み	C 掛川公園と周辺整備事業	種別	その他

① 取り組み概要

掛川の歴史・文化ゾーンの中心である掛川公園及び三の丸広場において、周辺環境の整備を進め賑わいを創出するため、平成30年度は、三の丸広場隣接の市所有未利用地の利活用に向け、カフェの社会実験やワークショップを実施、令和元年度は、掛川城下の2地区（城内区・松尾町区）を対象に、地域の住民とのワークショップを実施した。

また、令和2年度からは、まちなかウォーカブル推進事業の中で、掛川公園周辺の有効な活用方法の検討を行い、令和3、4年度は、三の丸広場及び連雀西交差点の歩道にベンチと物販等の出店エリアを設け、居心地のいい空間づくりに向けた社会実験「かけがわストリートテラス」を実施した。期間中には、その他事業とのコラボイベント等を実施し、賑わいづくりや、文化・芸術に親しむ来訪者の利便性の向上に繋がった。

まちなかウォーカブルのイメージ
（居心地が良く歩きたくなるまちなか）

R元年城内地区住民ワークショップ

かけがわストリートテラスの様子

② 自己評価

歴史・文化ゾーンの中心で、歴史的文化資産が集積するエリアにおいて、ベンチの設置や物販等の出店エリアを設けたことにより、週末やイベント時には、多くの利用者がおり、ベンチ等の休憩スペースがあることによって、滞留時間の増加、賑わいの創出に繋がった。

現状は、社会実験における限定的な利用に留まっているが、日常的な利用の増加を目指し、掛川公園をはじめ周辺の公共空間を活用した、歴史的風致のさらなる維持向上に繋げていく必要がある。

外部有識者名	東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任研究員 尾崎 信
外部評価実施日	令和5年1月17日

③ 有識者コメント

現状閑散としている掛川城周辺に人の居場所をつくる取り組みであり、歴史的文化資産が集積するこのエリアの価値を体感してもらうための仕掛けとして高く評価できる。屋台やベンチは、木質材を多用し、モダンでありながらも伝統的造形（切妻・縁側等）を取り込んだ意匠であり、このエリアの歴史・文化的な景観に馴染む優れたデザインである。一方で、これらの効果がイベント時などに限定されるのではなく、日常的にも発揮されるよう、更なる取り組みも求められる。周辺の民間施設との連携方策を中長期的な目標像から逆算して立てていくなど、短期的な事業成否に一喜一憂しないフレームを設定して、焦らずに効果を積み上げていくことを期待する。

④ 今後の対応

引き続き社会実験により設置した屋台やベンチ等活用しながら、賑わいの創出を継続できるように取り組むとともに、日常的な利活用が進むよう掛川公園周辺の利活用、整備について周辺文化施設や地域住民と連携しながら検討を進める。

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	1 掛川城下の祭りにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物に関する方針 III 歴史や伝統を反映した活動に関する方針 IV 歴史的建造物の周辺環境に関する方針 V 歴史的文化遺産に係る情報発信や周遊性に関する方針		

① 歴史的風致の概要

掛川祭は、7つの神社の氏子が参加する合同祭礼で、中でも龍尾神社、神明宮、利神社の祭礼は、江戸時代から続いている。3年に一度の大祭のときには、瓦町の「獅子舞のかんからまち」などの三大余興が登場する。

掛川城御殿などの城下町・宿場町の歴史を伝える街並みと屋台、手踊り、獅子舞などが一体となって、良好な歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

掛川祭は、現在も10月に実施されている。令和2年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止、令和3年、4年は規模を縮小をして開催された。

屋台の引き回しを地区内等にとどめながらも、余興等の実施を通じて、伝統文化を継承できるよう取り組む意識が醸成されている。

静岡県指定無形民俗文化財である「獅子舞のかんからまち」の保存会には、保存伝承や後継者指導養成のための活動に対し一部事業費を補助し、祭典の開催が難しい中でも、伝統行事の継承に寄与することができた。

歴史的風致形成建造物に指定した、松ヶ岡及び掛川城天守閣の修復工事を実施し、歴史的建造物の価値の保存継承に寄与するとともに、市民向けの工事見学会を開催するなど歴史的建造物の価値等についての情報発信の機会となった。

また、大手門周辺の道路の美装化や、案内サインの整備による事業の実施により、都市計画法の地区計画制度により形成された「城下町風」の街並みに合わせた景観形成が進められた。



掛川祭(令和4年10月)



松ヶ岡工事内部の様子



景観アドバイザーから助言を受ける(大手門周辺)

③ 自己評価

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、活動が制限される中でも、伝統行事の継承活動の継続や、祭礼を規模を縮小しながら開催されたこと、また歴史的建造物の修景事業や環境整備が進んだことで、歴史的風致の維持向上に繋がった。

④ 今後の対応

引き続き歴史的建造物の修復等による価値の保存、継承、祭礼等の伝承に努める。

また、城下町風の街並みが形成され、歴史的建造物が集積する歴史文化ゾーンのある掛川公園及び三の丸広場における公園整備や周辺道路の歩道拡幅等周辺環境の整備を通じた賑わいづくりの検討を進める。

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	2 事任八幡宮例大祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物に関する方針 III 歴史や伝統を反映した活動に関する方針 IV 歴史的建造物の周辺環境に関する方針 V 歴史的文化遺産に係る情報発信や周遊性に関する方針		

① 歴史的風致の概要

日坂・八坂地区では、事任八幡宮（このまはちまんぐう）のほか、旧東海道日坂宿の旅籠などが建ち並ぶ中、江戸時代から事任八幡宮例大祭が行われている。軒花で彩られた風情ある街並みの中、絵巻に残る神輿渡御などの伝統的なしきたりが引き継がれ、この地に良好な歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

現在も9月に事任八幡宮例大祭が行われているが、令和2年度以降新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、中止、令和4年度は、規模縮小をしながらの実施となった。

歴史的風致を形成する日坂宿の歴史文化建築物である、川坂屋や藤文では、地域住民により組織されている、川坂屋の会により、毎週末ボランティアによる施設ガイドを実施してきた。緊急事態宣言下では、施設を閉鎖したが、以降は感染症拡大防止対策を行いながら、活動を継続することで、来訪者への歴史的風致の周知が図られた。

各種イベントによる歴史文化建築物の活用や情報発信も実施された。

平成29年度、令和3年度には、まちづくり芸術祭「かけがわ茶エンナーレ」開催にあたり、藤文、川坂屋、萬屋等が作品の展示場として活用された。市内外から多くの来訪者があり、歴史文化建造物の魅力発信に繋がった。

また、オンラインでの開催となった東海道シンポジウムin掛川宿・日坂宿では、リアルタイムでバーチャルツアーが行われ、情報発信の機会となった。



事任八幡宮例大祭（令和4年9月）



かけがわ茶エンナーレ2020+1
日坂宿藤文作品展示
夏池 篤「光の籠」



東海道シンポジウムチラシ

③ 自己評価

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、祭典等の中止を余儀なくされたが、令和4年度は規模を縮小しながらも祭典等を再開することができた。

また、地域住民の協力による施設案内の継続やイベントによる建造物の活用により、地域住民をはじめ、市内外に歴史的風致を形成する歴史文化建造物の情報発信に寄与することができた。

④ 今後の対応

引き続き、歴史的建造物の地域住民による案内やイベント等による利活用を継続的に実施することで情報発信の機会とするとともに、あわせて祭礼等伝統行事についても情報発信できる機会を検討し、歴史的風致の認識の向上を図る。

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	3 横須賀城下の祭りにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅰ 歴史的建造物に関する方針 Ⅱ 城跡に関する方針 Ⅲ 歴史や伝統を反映した活動に関する方針 Ⅳ 歴史的建造物の周辺環境に関する方針 Ⅴ 歴史的文化遺産に係る情報発信や周遊性に関する方針		

① 歴史的風致の概要

横須賀城の城下町だった横須賀街道には、由緒ある神社や風情ある建造物が建ち並んでいる。横須賀城主がこの地にもたらした江戸の祭り文化は、江戸時代から連綿と継承され、今日の三熊野神社大祭に至る。横須賀街道と「ねりきち」と呼ばれる祭り好きの人々によって、良好な歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

現在も、4月の第一週の金～日曜日の3日間、遠州に春を告げる祭りとして、三熊野神社大祭、9月の第3週には、地域の子どもたちが主役となる「ちいねり」が開催されている。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、令和2年度は、神事のみで開催になったが、地域住民が中心となり、コロナ禍における祭典開催マニュアル「横須賀モデル」を作成し、令和2年12月には実証実験等を行いながら伝統行事の継承のための創意工夫が行われた。

その結果、令和3年度は、縮小開催となったものの、令和4年度は、観光客は入れない形での祢里の引き回し等祭典開催に繋がった。

また、祢里引き廻しの様子等もYouTubeで動画配信するなどを実施した。

また、平成30年度に国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された「三熊野神社大祭の祢里行事」の民俗調査が令和2年度から5年計画で実施され、祢里の巡行に関する調査や人形等の調査が進められた。

景観計画で景観形成重点地区として「遠州横須賀街道沿道地区」に指定されている地域住民を中心に、今後のまちづくりについて課題の整理やまちづくりの方向性の検討を行うワークショップを実施。地域の誇りである、祭りや風情ある街並みの維持向上を図りながら地域住民にとって住みやすく、来訪者にも親しんでいただける地域を目指す機運が醸成された。

③ 自己評価

コロナ禍においても地域住民が中心となって、祭典の継続方法を検討し、伝統行事の継承に取り組むことができています。また、祭典行事の調査や、景観形成重点地区におけるまちづくりの検討等を通じて、歴史的風致の維持向上に向けた地域住民の意識醸成が図られている。

④ 今後の対応

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により祭典行事が通常通り実施できない状況が続いているが、地域住民の創意工夫により、継続的な開催が見込まれるため、引き続き祭典行事を継続していくことと合わせて、歴史的街並みの維持向上を目指し、無電柱化や道路の美装化等についても地域住民とともに検討を進める。



三熊野神社大祭（令和4年4月）



祢里の巡行に関する
聞き取り調査



景観形成重点地区まちづくり
ワークショップ

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	4 高天神城と周辺集落の祭りにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物に関する方針 II 城跡に関する方針 III 歴史や伝統を反映した活動に関する方針 V 歴史的文化遺産に係る情報発信や周遊性に関する方針		

① 歴史的風致の概要

土方・中地区には、高天神城跡と高天神六砦の内の三つの砦、城を守護する神社などが残り、祭りを通して郷土の歴史と伝統が伝えられている。

春に高天神社例大祭、秋に小笠神社の矢矧祭と八坂神社の祇園祭りが行われ、周辺集落の人々の活動によって良好な歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

現在も3つの祭りについては、それぞれ開催されているが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、令和2～4年度は中止や規模縮小での開催となった。

静岡県指定無形民俗文化財である「大東町八坂神社の祇園囃子と祭礼行事」の保存会に対しては継続的に保存伝承や後継者指導養成活動に対する事業費の一部を補助し、祭典の開催が難しい中でも伝統行事の継承に寄与することができた。

八坂神社の祇園囃子の祭礼行事の中心である「神輿」の傷みが進んでいたため、令和元年度には静岡県の助成を受け、全面的な修理を実施した。新しい神輿を作ることも検討されたが、修理を行うことで、古来からの伝統を未来に継承することに繋がった。

高天神城跡や中村砦の環境整備が進められた。特に、中村砦では、地域住民が中心となって組織された中村砦城山保全会による園路整備や看板設置等が進められ憩いの場として整備されたことで、史跡として保存、そして地域住民が親しみを持って地域の歴史に触れるきっかけづくりに寄与した。

③ 自己評価

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、活動が制限される中でも、伝統行事の継承活動の継続や、祭礼が規模を縮小しながらも開催されたことや、文化財の修復や史跡等の環境整備が進んだことで、歴史的風致の維持向上に繋がった。

④ 今後の対応

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により祭典行事が通常通り実施できない状況が続いているが、コロナ終息後に再開できるよう伝統行事の保存伝承活動は継続的に実施する。

また史跡等の整備事業を引き続き実施するとともに、市民、来訪者への情報発信を行うことで歴史的風致に関する認識の向上を図る。



修復した八坂神社祇園囃子の祭礼事業の神輿



中村砦を見学する地元小学生



中村砦城山保全会による整備の様子

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	5 掛川茶の生産にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史や伝統を反映した活動に関する方針 Ⅳ 歴史的建造物の周辺環境に関する方針 Ⅴ 歴史的文化遺産に係る情報発信や周遊性に関する方針		

① 歴史的風致の概要

本市は、国内屈指の茶産地として知られ、特に粟ヶ岳の「茶文字」がシンボルである東山地区とその周辺では、丘陵地を利用した茶畑と明治期から残る農家住宅がモザイク状に点在している。茶への感謝と、伝統的な農法が脈々と受け継がれ、自然と共存した良好な歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

本市の茶業は国内屈指の茶産地として、全国茶品評会では、令和4年度に、3年連続、全国最多の24回目の産地賞を受賞するなど、市の代表的な産業としての質を維持している。

本市の茶業の代表的な東山地区では、平成31年に静岡県と周辺市町で策定した「大井川流域・牧之原大茶園景観形成行動計画」において粟ヶ岳周辺地区が重点地区に位置づけられた。

令和元年5月には、粟ヶ岳山頂に「粟ヶ岳世界農業遺産茶草場テラス（かっぱしテラス）」がオープンし、山頂から望む東山地区の茶園景観が令和2年度の「静岡県景観賞」最優秀賞を受賞した。

また、静岡県による文化的景観に関する調査のうち「茶に関わる文化的景観の代表的な地域」として「東山地区の茶畑」が選定され、令和2～4年度にかけて、地域の現況等について調査が行われ、文化的景観としての重要性や課題等が整理された。



令和4年度産地賞受賞を喜ぶ職員



大井川流域・牧之原大茶園
景観形成行動計画

③ 自己評価

代表的な茶産地である東山では、伝統的な農法の実践や、地域資源を生かしたPR等を通じて市内外からの多くの来訪者に地域の魅力を発信することができている。しかし、茶生産者の高齢化、茶価低迷による離農に伴い、耕作放棄茶園の増加や伝統農法実践者の減少が進行しており、PRとともに所得向上の取り組みが急務となっている。



静岡県による重要文化的景観調査

④ 今後の対応

引き続き、伝統的な農法である茶草場農法の継続、市の代表的な産業としての質の維持等に努めるため、生産者の所得向上に取り組むとともに、茶草場テラスをはじめ地域の景観資源やハイキングコース等を活用しながら、お茶や粟ヶ岳の自然等について市内外への情報発信を図る。

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	6 報徳運動にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史や伝統を反映した活動に関する方針 Ⅳ 歴史的建造物の周辺環境に関する方針 Ⅴ 歴史的文化遺産に係る情報発信や周遊性に関する方針		

① 歴史的風致の概要

本市の報徳活動は、江戸時代末期から始まり、大日本報徳社大講堂で長年続けられている常会によって、報徳運動は市内に広がり、現在のまちづくりにつながっている。至誠・勤労・分度・推譲の教えが市民に根付き、地域のための活動により、良好な歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

報徳運動の中心である、大日本報徳社大講堂で明治9年11月から現在まで続けられている常会は、継続的に計1,769回（令和5年3月時点）開催され、報徳運動が継承されている。

令和2年度には、報徳社建造物群で、静岡県補助金を受け防災施設保守点検事業を実施。

令和3年度には、設置した防災施設を使った放水訓練を、文化財防火デーに実施し、歴史的建造物が集積するエリアにおける防災意識の向上が図られた。

令和3年11月に、第26回全国報徳サミットin掛川市大会がオンラインで開催され、若者によるリレートークや、報徳劇などが行われた。参加市民や広く一般の方々等への報徳運動について周知する機会となった。

市民や企業による清掃活動は、市へ登録している美化ボランティア登録は延べ111団体・26個人（令和4年12月時点）となっており、報徳運動の一環として広がった活動が継承されている。

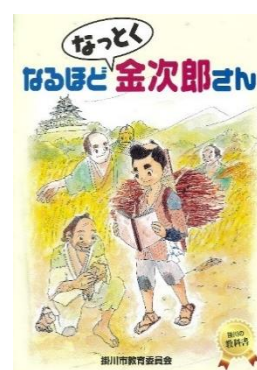
また、小中学校の道德教育を「かけがわ道德」とし、歴史や文化等を通じて郷土を誇る心を育てることを目的に、郷土読本（副読本）等を活用した授業や大日本報徳社などの施設に出向くなどの校外授業を通して地域の偉人、歴史や伝統等を学び地域に興味と誇りを持つ機会となっている。



報徳社における防災訓練



報徳サミットin 掛川市大会
（大日本報徳社大講堂）



郷土読本

③ 自己評価

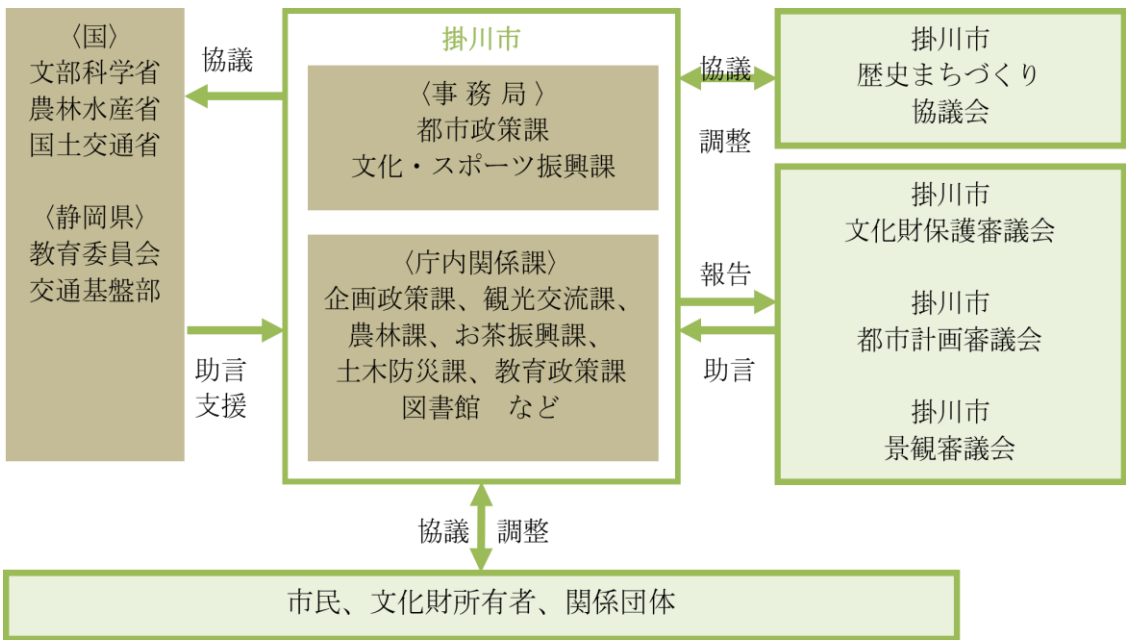
報徳運動の中心である、大日本報徳社における事業等により、引き続き報徳運動が継承することができている。

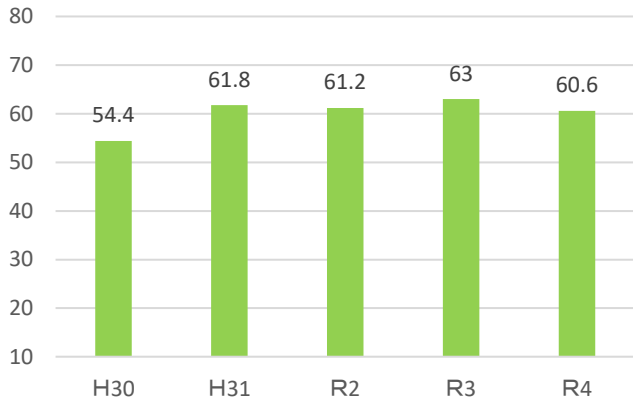
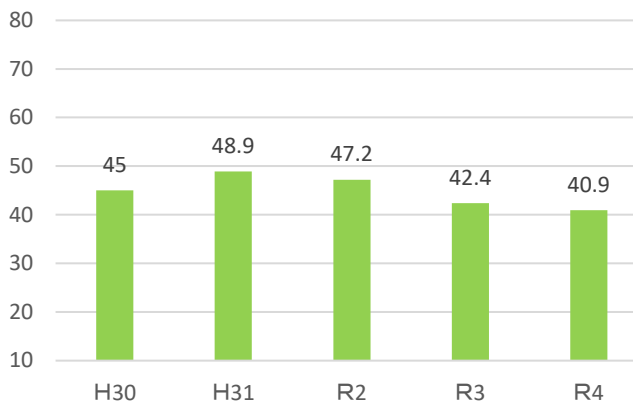
特に若者が参加した報徳サミットや小中学生の授業への反映を通じて、報徳運動に関する地域の歴史や伝統を学ぶ機会となり、次世代への歴史的風致の継承に寄与している。

④ 今後の対応

大日本報徳社での常会、派生して実施されている清掃活動や協働によるまちづくり等を引き続き実施できるよう努める。

特に小中学生へ「かけがわ道德」は次世代を担う子どもたちが、報徳運動をはじめとする歴史や伝統を学び地域に興味と誇りを持つことが、歴史的風致の維持向上、次世代への継承に繋がるものと考えられるため継続していく必要がある。

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
① 庁内組織の体制・変化 計画の推進体制は策定当初は、市長部局の都市政策課と教育委員会の社会教育課を中心とし、各事業担当課との連携を図りつつ、本計画の総合的かつ効果的な進行を図ってきた。 令和2年度からは、文化財保護に関する事務を教育委員会から市長部局の文化・スポーツ振興課へ移管し、より密な事務局体制を構築することで、文化財をまちづくりに活用することで地域の活性化を促進することとしている。 また、庁内職員向けに計画関連の工事見学等も随時実施するなど横断的に情報共有に努めている。		 関連事業の工事見学	
 掛川市歴史的風致維持向上計画 推進体制			
② 庁内の意見・評価 ・掛川市歴史的風致維持向上計画により推進体制が整い、歴史的文化施設、公共空間の整備等について、従来個別の所管ごとに行われていた事業の関係性がより明確になったことにより、関係課等が連携して各種事業を進めることができた。 ・市民に対して、掛川市歴史的風致維持向上計画の認知度は、まだ低いため、連携した情報発信に努める必要がある。			

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年																								
① 住民意見 ○市民意識調査（H30～R4） ①「郷土の文化の保存と文化芸術活動の振興がされていること」への満足度※ ※満足度：総合計画の関連する40の指標に対する回答を点数化し偏差値を算定したもの。  <table border="1"> <caption>郷土の文化の保存と文化芸術活動の振興がされていることへの満足度</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>54.4</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>61.8</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>61.2</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>60.6</td> </tr> </tbody> </table> ②あなたは、郷土の歴史や文化に誇りと愛着を持っていると思う割合※ ※思う、まあ思う割合の合計値  <table border="1"> <caption>郷土の歴史や文化に誇りと愛着を持っていると思う割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>48.9</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>47.2</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>42.4</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>40.9</td> </tr> </tbody> </table>				年度	満足度	H30	54.4	H31	61.8	R2	61.2	R3	63	R4	60.6	年度	割合	H30	45	H31	48.9	R2	47.2	R3	42.4	R4	40.9
年度	満足度																										
H30	54.4																										
H31	61.8																										
R2	61.2																										
R3	63																										
R4	60.6																										
年度	割合																										
H30	45																										
H31	48.9																										
R2	47.2																										
R3	42.4																										
R4	40.9																										
② 協議会におけるコメント ・それぞれの事業の位置づけや、全体像が分かるようなマップの作成いただくとよいと思う。その中でも、事業のエリアや内容が重なってくると思うので、歴史的風致ごとに情報を整理しながら可視化していくとわかりやすい。そういったものを作成いただくと、それぞれの事業に関わっている団体等が、自分たちの取り組みだけでなく、この歴まち計画の中で、どのような立ち位置にいるのか理解しやすいのではないかな。 ・市民意識アンケートの「郷土の歴史や文化に誇りと愛着を持っていると思う割合」が年々減少傾向にある。この計画は、歴史的風致を維持、向上をしていくということであるのでどのように向上させていくかを考えたときに、市民活動がどの程度まで行われているかが重要。 ・市民活動シートといったものを作るなどすると、市民活動等ソフト事業の取りまとめ、評価がしやすいのではないかな。																											

市町村名	掛川市	評価対象年度	H29～R4年
① 全体の課題 ●歴史的建造物に関すること 歴史的風致形成建造物に2件の建造物を指定し、修理等が進んでいるが、市内にはその他多くの歴史的建造物が所在しており、それらの歴史的価値等の調査研究や維持管理・活用についての検討を進める必要がある。 ●城跡に関すること 市内に3つの史跡があり本格的な整備には、相当な時間と費用がかかるため、整備スケジュールを調整しながら、計画的に推進する必要がある。 ●歴史や伝統を反映した活動に関すること 定期的に行われていた祭典等の伝統行事や、産業の技術伝承に関する取り組みが、新型コロナウイルス感染拡大により、活動が制限されたことで、途絶えることがないように引き続き支援をする必要がある。 また、掛川茶生産などの産業により維持される、歴史的風致の維持向上には伝統的な技術等の伝承以外にも、生産者（農業者）の所得向上や、後継者育成の取り組みを進める必要がある。 ●歴史的建造物の周辺環境に関すること 地区計画や景観計画をはじめとする既存の計画等による規制誘導と合わせて、道路等の整備により、良好な景観形成に繋がっているが、既存の計画等の策定時から時間が経過し、住民の理解や意識の低下、地域の状況の変化により、規制誘導の内容の見直し等を検討する必要がある。 ●歴史文化資産に係る情報発信や周遊性に関すること 重点地区内における事業が先行しており、その他の歴史的風致の事業と比較すると進捗に偏りがある。このため、個別の事業ごとの情報発信となることが多いため、情報発信に偏りがあることや、一体となった情報発信が不足している。			
② 今後の対応 ●歴史的建造物に関すること 所有の官民を問わず、歴史的価値等の調査研究進め、必要に応じて歴史的風致形成建造物に指定し、維持管理、利活用を促進する。 ●城跡に関すること 計画的に整備を進めるとともに、市と地域の協働により適切な保存・活用を促進し、あわせて情報発信等に努める。 ●歴史や伝統を反映した活動に関すること 継続的な支援を進めるとともに、伝統行事や産業等の伝承についての情報発信を進めることで、その必要性についての理解促進を図る。また、伝統的な技術等の支援とあわせて産業自体の維持等に係る支援等とも連携した支援策を検討する。 ●歴史的建造物の周辺環境に関すること 継続的な規制誘導と合わせた景観形成のための整備を進めるとともに、規制誘導の内容についても地域の状況に合わせた見直しを検討する。 ●歴史文化資産に係る情報発信や周遊性に関すること 事業ごとの情報発信を進めながらも、歴史的風致ごとや市内一体となった情報発信を進めるとともに、周遊ルート、市内全域で統一したサイン整備の検討を進める。			